

「特別の教科 道徳」の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

☆ 「自己を見つめ、多面的多角的に考え、生き方についての考えを深める」道徳 実現のためのポイント

1 「ねらい」を明確にしましょう

例えば、「B 友情、信頼」において

① 内容項目の理解

学習指導要領に基づき、ねらいとする内容項目について**焦点的に理解**します。

学習指導要領解説から

- ★ 発達の段階をとらえましょう。(一覧表をヨコに見る)
- ★ 内容項目の違いをとらえましょう。(一覧表をタテに見る)

② 児童生徒の実態把握

分析した内容項目について、**児童生徒の実態**を重ねて、本時で**気付かせたい道徳的価値**を明らかにします。

第1学年及び第2学年の指導の観点

(9)「友だちと仲よくし、助け合うこと」を基に…
友達と活動して楽しかったことや友達と助け合ってよかったことを考えさせながら、友達と仲よくしようとする**ことの大切さ**を育みたい。

教育活動全体を通じて指導する。

児童生徒の実態

- よさ** 気が合う友達と仲よく遊んだり生活したりすることができる。
- 課題** 友達の気持ちを考え、助け合うことはまだ難しい。

実態から願うこと

友達の気持ちを考えて仲良く活動したり、お互いに助け合ったりできるようにしたい。

<要となる道徳科の時間の計画>

③ 教材の分析

内容項目の理解、児童生徒の実態を基に、**教材の活用**について考えます。

教材「二わのことり」

やまがらの家に向かう「みそさざい」の気持ちを考えさせることで、友達同士、仲よく助け合うことのよさに**気付かせたい**。

明確にしたねらい

友達の気持ちを考えて行動すると、みんなが楽しく生活できることに**気づき**、友達と仲良く助け合っていこうとする態度を育てる。

教材分析の仕方

- 登場人物等の心情を考えながら教材を読む。(児童は登場人物の心情を通して、自分の生き方を語る。)
- ねらいに迫るために、児童に考えさせたい場面を選び、基本発問を2~3つ考える。そのうち、本時で**気付かせたい道徳的価値**が最も強く表れている場面を中心発問にする。
 - ・みそさざいは何を迷っているのだろう。
 - ・みそさざいはどんなことを考えながらやまがらの家に向かっているのだろう。(中心発問)
 - ・涙をこぼして喜んだやまがらを見て、みそさざいはどんな気持ちになっただろう。
- それぞれの発問について、児童の反応を予想する。
- 気付かせたい価値に自ら**気付く**ことができるように基本発問にかかわる補助発問を決める。さらに、中心発問を際立たせる深めの発問を考える。
 - ・みそさざい来てくれたとき、やまがらはどんな気持ちになっただろう。

ねらいの明確化

【あらすじ】

やまがらの家では誕生会が開かれます。同じ日に、うぐいすの家では音楽会の練習があります。

小鳥たちは皆、明るくてごちそうもあるうぐいすの家へ行きました。みそさざいは迷いながらも、みんなと同じようにうぐいすの家へ行きました。

しかし、やまがらの事が気になったみそさざいはこっそり抜け出し、やまがらの家へと向かいました。やまがらは涙をこぼして喜びました。みそさざいは来てよかったと思いました。



2 1 単位時間の学習過程を理解しましょう

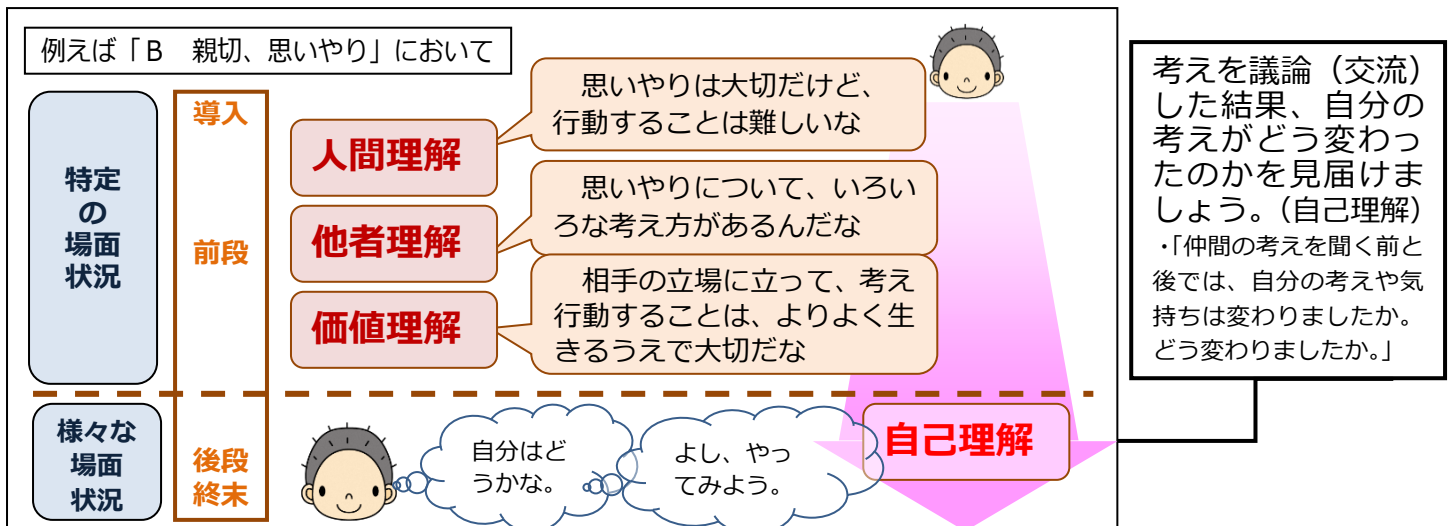
「考え議論する道徳」 ～道徳的価値に自ら気付くことができる指導を～

内容項目について
主体的に、自分との関わりで、考える

内容項目について
多様な考え方、感じ方を交流し、自分の考えを広げたり深めたりする。

	学習過程	◆指導のポイント ※留意点
導入	○ 主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、自己を見つめる動機付けを図る段階	◇方向付けをしましょう。(価値への・資料への) ・「友達と一緒にいて、楽しい時はどんな時ですか」(B 友情、信頼) ・「学校のきまりにはどのようなものがありますか。」(C 規則の尊重/遵法精神) ・教材が理解しにくい場合、時代背景や人物について説明する導入もあります。 ※「今日は親切について考えます」と始めると、教師からの一方的な価値の押し付けとなり、児童生徒は受け身になりがちです。課題提示のあり方について工夫しましょう。
前段	○ 教材を通した人間理解、他者理解、価値理解を通じて、ねらいとする道徳的価値を理解する段階 ・読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 ・問題解決的な学習 ・道徳的行為に関する体験的な学習 気付き、価値の理解	◇児童生徒の実態と教材の特質を踏まえ、どの場面で、何について考えさせたいのかを明確にし、発問を精選しましょう。 ※資料の登場人物から離れて「あなたならどうする?」と問うことに留意しましょう。 ⇒読み物教材では、登場人物の心情を語ることが、自分の心の中と重ねて考えることにつながり、自分との関わりで考えていることになります。 ※体験的な活動や問題解決的な活動では、活動することのみが目的とならないようにしましょう。 ⇒活動を通して感じたことや考えたことを確かめることで、価値理解につながります。
後段 終末	○ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめ、今後の発展につなぐ段階	◇児童生徒ひとりひとりが、本時の気付きに対して、自分はこれまでどうだったかを見つめることができるようにしましょう。 ※気付きもなく「これからどうしたいか」だけを考えさせることは、価値の押し付けになってしまいます。 ⇒過去の自分を見つめることで、自分をより深く知り、それが今後の自分につながっていきます。 ◇子供たちが、仲間と議論したことにより、自分の考えがどう変容したのかをつかみましょ。う。 ◇道徳的価値に関わる教師自身の経験や学級で見られる児童生徒の行動等のよさについて価値付けるなど、実践意欲を高められるようにしましょう。

「考え、議論する道徳」による道徳的価値の理解の深まり



考え、議論することを目的とせず、「自己を見つめ、生き方についての考えを深める」ことをめざしましょう。